



身近なことから考える、税金と未来。

大田区立東蒲中学校 三年 屋嘉部 いろは

私は、生まれたばかりの幼い頃からアトピー性皮膚炎という病気に悩まされています。アトピー性皮膚炎とは、皮膚のバリア機能が低下し、かゆみを伴う湿疹が慢性的に良くなったり悪くなったりを繰り返す皮膚の病気です。症状が一時的に良くなることはあるものの完治することはない為、私は昔からいろいろな病院にかかってきました。

いろいろな病院に何回もかかり、いろいろな薬を処方してもらって、診察代や薬代など、お金のことが気になります。小さい頃から様々な治療をつけている為、きつと莫大な額になっているに違いないと不安になりながら両親に訊ねました。両親は私の考えとは正反対のことを言いました。なんと、私の病院代や薬代にお金はほとんどかかっていないと答えたのです。

これを聞いた私はとても驚きました。それと同時に、どうして病院代や薬代などの「医療費」に対してお金を支払わなくても、適切な医療を受けることができるのか、不思議に思いました。

調べてみると、医療費は、個人や企業、国が支払う保険料と、税金、患者の自己負担の三つで構成されていることがわかります。本来なら三割が自己負担になるはずが、十八歳までは自己負担額を税金で賄っても

らうことができるため、病院に行っても、お金を支払わなくていいことがわかりました。

今まで意識していなかった医療費に、こんなにも税金が深く関わり、私の生活を支えてくれていたことを知り、とても驚きました。

このことを知っておかげで、普段何気なく納めている消費税をはじめとする税金についてのイメージが変わり、自分なりに考えを巡らせるきっかけができました。例えば、平成元年に導入された消費税や、個人の所得に対してかかる所得税は、日本の税収の約三分の一を賄っていて、日本に住む私たちの生活を支えてくれています。安いとは思えない税金でも、将来、自分の命が税金に助けられる日が来るかもしれない。自分が納めた税金で、誰かの命が助かるかもしれないと考えると、税金はとても大切なことがよく分かります。

日本には、数えきれないほどの方が、何らかの病気を患っています。私みたいに、一見すると健康に思っても病気を患っている方もたくさんいます。そんな方々が満足のいく医療を受ける為の税金なのだろうと、改めて考えます。地球にいる全ての人が、時と場所に関係なく適切な医療を受けることができる世界を、創ることができたらいいなと思います。